

できる・できる・できる

校訓：「自主・友愛・飛躍」

令和3年 6月 28日

No.17

長崎市立戸町中学校

文責 校長 大橋 功

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/tomachi-j/>

戸町っ子の心を見つめる教育週間スタート！

命について考えてほしいにと

～心のウォーミングアップ～

本日、28日（月）から長崎市内全ての中学校で「長崎っ子の心を見つめる教育週間」がスタートします。今年度から本校では、“長崎っ子”を改め、“戸町っ子”とし、「戸町っ子の心を見つめる教育週間」としてスタートします。期間中の教育活動については、すでに、お知らせしているとおりです。今週末の土曜日には、道徳（生命の尊重）の授業を計画しています。

初日の1校時には、校長から全校生徒に向けての「全校道徳」を校内放送で実施しました。内容は、「心のウォーミングアップ」です。

内容の一部を下記によりご紹介します。

（前略）

「戸町っ子の心を見つめる教育週間」では、特に「命」に考えるのですが、もう一度整理したいと思います。

「戸町っ子の心を見つめる教育週間」とは自他共に、

- ・命とは何かを考える週間
- ・命を大切に作る週間
- ・命を敬い、尊ぶ週間
- ・命あることを喜ぶ週間
- ・命あることに感謝する週間
- ・命を守ることを考える週間



まとめると、「命の素晴らしさを再確認」する週間だということです。

そこで今日は、「戸町っ子の心を見つめる教育週間」を前に、みなさんの心のウォーミングアップになればと思い、「二つの資料」を用意しました。これから私たちが考え、深めようとする「命」について、ありのままをストレートに表現している内容です。

一つ目は、当時中学生だった少女が「東日本大震災」で体験したことを4年後の19歳のときに追悼式で読み上げた手紙です。

そして、二つ目は、ある母親がはじめての出産後、その時の気持ちを「育児日記」に記した内容です。「手紙」と「育児日記」は、実体験を元に書かれていますが、その内容はまったく違います。

ぜひ、命の尊さについて考えながら一人一人の心で感じ取ってください。

-----（手紙と育児日記の内容は省略）-----



さて、みなさんは「手紙」と「育児日記」から何を感じ取りましたか？

少女の手紙には、母親の死に直面し、辛いことがあっても、大地をしっかり踏みしめて「みんなでがんばっぺな〜」。と、みんなで支え合いながら強く生き抜く姿があります。

初めて出産したお母さんは、「とっても、元気な泣き声にうれしかった」と、新たな命の誕生に、眠れないほどの喜びを感じています。



今日は、みなさんの心のウォーミングアップなので、これ以上、深くは話しません。

「戸町っ子の心を見つめる教育週間」の中で、「命」についてしっかりと考え、一人一人の心をふるわせてください。（以上）

心の種

今回のテーマは「小さな親切、大きな感謝と笑顔」です。

先日、3年生の保護者の方から一本の電話がありました。内容は、「私が荷物を持って大変な思いをしていた時に、2年生の大安千風さんが荷物を持って助けてくれたんです。ぜひ、学校でも褒めてください！」でした。



私も似たような場面に遭遇することがありますが実際には“持ちましょうか”の一言が言えなくて後悔したことがあります。一つの小さな親切が、保護者（地域）の方の感謝と笑顔にかわる。大切に育んでいきたい“戸町っ子の姿”です。（*_^*）